【購読定価（郵税）1ケ月13円1部3円】

焦点

三作支部の銀水社宅炭婦協が結成されたのが五月廿日、それから日ならずして脱退総会なるものが幹部の要請で開かれ三百五十名の会員中二百六十名まで脱退者を出すと云う不祥事が起きた。事ら彼区婦人会のテマ切崩し飛ばされたもので、幸い組合側隠命の教宣活動が効を奏し日ならずして低く元の鞘に収まったが、その陰には目覚めた婦人達の並々ならぬ協力があった事を見逃す訳には行かない。

十八日三作支部では全機能を挙げて岩津、渕施社宅に宣伝活動に赴き、その虚を衝いて脱退総会が招集された。事の起りは彼区婦人会から開め出される結果一切の行事は勿論公民館からも外され子供が学校で差別待遇を受けるとマコトしやかなテマ宣伝が流布され、そう云う事ならこの際炭婦協を脱退しようと云う事に先ず上部が動揺し、時を移さず総会を招集、旧婦人会幹部が彼区婦人会に帰れ〳〵とアジると共に職場会長以下全役員が辞任を申出で、会員に対しては彼区婦人会に帰るかそれとも炭婦協に残るか当日午後三時半までに記名投票で意否を問うた結果、脱退二六〇対残留九〇票でこゝに大きく分裂、すべてこれらの事が組合には内緒でテキパキと運ばれた。

多くの会員が動揺した中にあつて所信をまげず敢然と闘み止めた柱石

揺がぬ信念

分裂を食い止めた柱石

止つた主婦の中でも西山縫江、山田いつよ、谷口澄子の皆さんは特に好く頑張つた。

一人々々を説得して歩くと云うのでもないが、炭婦協の意義をちゃんと身に体し毅然たる態度を崩さないこの人達の前は一部反動的幹部も難して通つたし、無言のうちにも周囲に与えた影響は同と云つても大きいものだつた。一方組合側も分裂の報に一時は流石に狼狽の色をかくせなかつたが眞ぐさま実情を調査の上テマ宣伝の粉砕に大車の活動を続けた結果一時は惑わされた会員も一人二人と理性を取戻し、苦闘九日間廿八日折柄の豪雨を衝いて行われた再度の記名投票の結果ほゞ元の数に近いところまで復限した訳であるが、それもみんな山田さん達の揺ぎなき信念と頑張りのたまものと感謝されて居る。

（右から山田、西山、谷口、の皆さん）

企業整備の闘いは一人一人が闘うことだ

三井の企業整備に對する考え方は、企業整備對策の中闘として上京していた宮川組合長の歸山によつて会社の考え方が一應わかつた。組合としては中央執行委員会、中央委員会を開催してこの〻整備に対する闘い方についての論議を進め、職場闘争並に大衆闘争として推し進め強力に闘うことを決定した。

整理の對象は

会社が考えている整理対象は鉱員一〇%、職員一五%を考え、これに数が合うように整理基準を種々考えているもようである。

時期については

当初会社は五日より十日までを目途として全山労務部長、社長会議を開催していたもようであるが、大手八社にさきがけてやることは会社としては不利としてか、総部大会（八日より四日間）スト規制法反対スト（十一日）炭婦協第三回東京地裁（十七日）などのこらみ合せより十五日より二十日頃を目途としているようである。尚三井より三菱が先に企業整備に着手する筈であつたが、水害関係もあつて与論が会社に不利になるとして延期をしたことも三井が遅れた理由のようである。

職組はどう闘うか

三社連に対しては、会社は一五%を考えてリストも出来上つているようである。これに対し職組は三社連大会をその時期どこらみ合せて開催し、断固闘う方針である。

闘いはどうすゝめるか

組合としては企業整備が出たら、一人も辞めさせない零の状態で闘いを推し進める。

闘いの方法としては賃金闘争のように会社の貯炭を減らす減産ストでなくもつとも効果をねらつた職場、地域の大衆ストを展開する。方法については戦術委員会で立案する。

何故首切り急ぐ

政府は炭鉱企業合理化資金として二七億を考えているもようである。これはあくまでも企業整備をはならない状態にある。

企業整備 各山の状況

出血輸出と独占企業の波紋から貯炭の増大となり、そのシワヨセが労働者に企業整備の形で首切りを要求して来ている。大手炭鉱の組合は三井をはじめ生活を守るため必死の闘いを続けて来ている。

他社の動向をみて

＝三菱炭連＝

会社の一部幹部が企業整備の内容を個人的にもらしたので、三菱炭連はこれを重視、鋭どく本社に対して追及したところ会社はあわてゝその発表を否定した。しかし三井と同様に首切りを含めた企業整備は必ず出てくるようである。現在九州は大水害のため相当の被害があつたので、会社が首切りを断行すれば世論が会社に対して不利となるので、他社の動向をみてから対策をたてようとしている。

反撃闘争を準備

＝住友炭連＝

さきの新歌鉱閉山にともなう希望退職者が予想に反して多く、北海道だけでも約八百名の退職者が出たあたる。組合では出来るだけ希望退職を認めないよう努力したが、なかにはどうしても申込んでくる始末で困つたが、しかしその後炭連としては根本的な対策をたて反撃闘争を準備している。とくに後将こり得る企業整備に対処し、前提としたもので、会社は借金の整約に首切りを今月中に提出せねばならない状態にある。

脱落した山野労組

炭労のスト指令を効果なしと總會で断定

炭労のスト規制法反対第二波ストに田川、山野は入らなかつた。山野の場合、次の様に経緯が明らかにされた。即ち十日の西鉱連における三山の運絡会議後山野としては十一日中央闘争執行委員会を開き討論した結果、指令に基いて断面ストに突入すべしとの意見もあつたが、

1、廿四時間ストは効果がない。

2、効果のないストは次の闘争に重大な支障を与える。

3、他産業は炭労のような強力なストは打つていない。こんな無駄な経済的犠牲を考えずしてスト指令を出した炭労の戦術に対する抗議。

以上の理由により十一日午後五時四十五分スト中止を指令、その後討議の結果

1、今回のスト中止の処置に対して組合員に無駄な経済的犠牲を払わせる。

2、効果のないストは次の闘争に重大な支障を与える。

3、他産業は炭労のような強力なストは打つていない。こんな無駄な経済的犠牲を考えずしてスト指令を出した炭労の戦術に対する抗議。

この理由を認めてもらうべく十四日中央委員会を開催したが、規定による三分の二以上に達せず流産を得られなかつたので翌十五日総会を開き執行部を信任するか否かを問うたが、不信任二一三でこれまた三分の二に達することなく結論が得られなかつたので三支部より六人の決議機関代表を選んで小委員会を構成、今回のスト中止の処置に対して組合員に無駄な経済的犠牲を払わせる。

有明海に伸ばす鋼手

潜函浮上成らず

試錐基地工事に涙ぐましい努力

伝統古い宮原、万田鉱閉鎖以来、坑地下を掘り尽して西へ北へと移行し、更に優秀な炭脈を探索して漁手を有明の海底に伸ばしゆく三池炭鉱は、先に有明海上に海底探掘の換点である人工島「初島一」を創つて世界の話題を賑わしたが、今度は有明海の真中にボーリングの錐を突刺して「潜函」を海中に沈下し、その上に試錐の櫓を組んでボーリングすると云う画期的な方法で、二年前から三池港燈台西北海上約三粁の地点にこのケーソンを沈下、既に第二のボーリングが行われて来たものであるが、今度はケーソンを移動して第二の地点のボーリングを行う運びになつたのだ。

このボーリング（試錐）は全重量三千噸近いコンクリート製のケーソン（潜函）を海中に沈下し、その上に試錐の櫓を組んでボーリングすると云う画期的な方法で、二年前から三池港燈台西北海上約三粁の地点にこのケーソンを沈下、既に第二のボーリングが行われて来たものであるが、今度はケーソンを移動して第二の地点のボーリングを行う運びになつたのだ。

海中に聳立する大工場

ケーソン浮上へ！

一四、八〇〇米×一一、二〇〇米高さ十二米、容水積一、三九〇噸と云うコンクリート製の箱、さまざまな鉄柱、クレーン、鉄鎧を張り廻らしたその中に三十馬力のポンプ三基とそれを動かす発動機を据付けたケーソンは知ら海上の大工場の感じで、側面には塗装船二隻が積づけして巨人の掌のようなプレッヂャーで潜泥をつかみあげている。三つの大ポンプの口からは滝のように泥水が噴出しているさまざまな汽罐の音、動力機の唸音、その間を走り廻り、叫び合う声を油に汚れた、ひきつつた表情人々の喚叫で四辺は騒然としている。

工事は干潮でケーソンの水槽部分が見えはじめてから、全能力のポンプで千四百トンの水を汲み出し引火して、騒然となつた。負傷者が引揚げられ、会社から派遣されていた救護班の手当を受けたり騒ぎたが、大した事故にならずに済んだ。過労に疲れた人々が、倒れる一歩前の歩きぶりで、同僚から扶けられ、注射をうちに来た。

そうして、潜函の隔絶されたこの工事現場に、更に深絶な海水との闘いが続けられた。

刻々、ハッチから鋼縄が下され水槽が計られるが、あと二米位になつて、遂に水を噴くポンプは一基になつてしまつた。潮はぐん〳〵増加して潜函の上部を洗いはじめ皆の心のなかに、はつきりと不安と焦燥感が頭を擡げた。函水放上時の四時が過ぎまつたのにも関ひとり気づかず「潜函浮上」へつかれたように、能力の全部を注ぎこんで働いた。にも拘らず、遂に浮上しなかつた潜函の上に人々は海水が殺を浸し、ヘソまで上るのを忘れて呆然とたちすくんだ。

この一夜の潮で、何もかも元のもくあみだ。

しかし、失望してばかりはいられない。一部の人々は機械器具類の

疲労し果てれば注射をうつて

水と時間へ挑む

しかし全作業員、立会人の祈りにも似た期待にも拘らず、工事は必ずしも順調には進まなかつた。

試運転には好調だつた発動機が泥水を浴びたためか、次々に故障を起して喘いだ。ポンプの噴出が片方が調子づくかと見ると、一片が停滞した。そのうちに潜函内部に備え付けられた発動機がスパークかとの話です。土曜日は朝からその仕度で大わらわだそうです。

海中に無念の涙を

夕海に無念の涙を

以前この工事を民間会社が請合つて、時も四回も失敗していると云う。だからと云つて三池の誇る旧建設技術陣の活動は時間されねばならない。

潜函遂に浮かず

夕海に無念の涙を

以前この工事を民間会社が請合つた時も四回も失敗していると云う。だからと云つて三池の誇る旧建設技術陣の活動は時間されねばならない。

紙上スライド

ストライキ突入表情

24時間ストの巻

職組遂に脱落

スト突入前日の午後、職組は遂にストライキに突入しないことが明確になつた。我々は中央委員会で職員組合員に対し実情を訴へ、戦列に復帰さすべく勧告することを決定し、スト当日行動に移つた。

説得に努める

「こんな状態であつたら出勤しなかつた」「何故職組はストをやらなかつたのか」と職組の人々はスト規制法反対とスト脱落のジレンマに、鳩が豆鉄砲食つたようなかつぜで説得にうなづいていた。

階級意識に訴える

職員の皆さんへと掲示板は訴えている一本日までスト規制法反対の行動を共にしてきた盟友と一緒に闘つて下さい。各支部の執行委員もこの抗闘ストをより効果をあぐべく階級意識に訴えている。

我々の行動は正しい

我々の行動は正しい。合法ストである。オドシにかゝつてオジケづいて脱落する組合があるとの事、今日の闘いは今日進めなくては明日では遅すぎるのだ。我々は中央の指令に従つて本社前にもケつ。

闘う方向へ

大手で闘う組合として今日まで闘つて来た、山野、田川、三池職組が疲労二十四万の中より脱落した。闘いの波は押寄せて来る。現下ではこれらの組合を闘う方向に指導するのが三池の使命だ。

救援行

水害地に寄せた温かいカンパ

今度の水害に際し鉱組としては逸早く対策委員会を設け、罹災者に対し温い救援の手を差し伸べたが、救援物資のカンパに示した炭婦協の熱意と誠心と真剣な努力は識職に値するものがあり、水害対策委員として活躍した花園政対部長の手許で取纏められた資料によると米七石二斗、衣料二〇六九点を筑豊に馬鹿署六三七貫三〇〇匁、麦三斗三升三合、塩二斗三合、その他食料、日用品など価格に換算して約廿五万八千円、組合員の罹災者もさる事ながら何分意を要する事なので最も被害の大きかつた飯塚市、久留米市、柳川市、三橋村、昭代村、山門村等各市町村に前後十数回救援トラックを繰せ夫々激励慰問を行うと共に夫々救援対策本部に物資を寄託した。各社宅から寄せられた救援カンパの内訳左の通り

宮浦支部

◇長薄社宅　米二斗七升四合、馬鹿署三・五俵、玉ねぎ〇・五俵

◇大谷社宅　衣料五四点　現金一・六〇〇円

◇馬渡社宅　米二升、麦一K、麦粉一・帽子一ケ、靴二梱包、現金二・四六〇円、衣料一〇梱包

◇東谷社宅　米五升五合、馬鹿署八貫、衣料七五点、現金一・二九五円

◇宮前社宅　現金三・四六〇円、衣料二二点、米一斗三升二合、麦、麦粉八合、馬鹿署四三貫、甘藷二貫、玉ねぎ六〇〇匁

◇月見丘社宅　米一斗五升、現金二・九九〇円

◇朝日丘社宅　米四斗、現金一・三二五円、衣料五点

◇大砂社宅　米一斗一升

◇紅葉丘社宅　米五合、麦一升、現金四・九三五円、衣料二六点

◇通松社宅　衣料二三九点、石ケン一、縄三〇〇匁、現金二七〇円、米一斗五升

◇矢道社宅　米二升、衣料九点、現金一・一四五円

◇鶴湖瀬社宅　米二升

◇職場　米八升五合、衣料三点、石ケン二、現金四一円

三川支部

◇原万田社宅　米三斗六合五勺、玉ねぎ、馬鹿署各一俵、塩六K

◇大谷社宅　米四斗六升、馬鹿署四俵、塩二〇K、漬物一把、コツペパン一〇〇ケ

◇緑丘社宅　米三俵四升、馬鹿署玉ねぎ二一俵、塩若干、コツペパン三〇〇ケ、衣類七〇〇点

◇新港社宅　米三斗六升七合、麦二升五合、干うどん二五把、麺一反、塩二五K、大豆三合、玉ねぎ、馬鹿署三貫、衣料一七五点、靴二足、コツペパン三五〇ケ、ビスケット七〇袋

◇西原社宅　米一斗、麦一斗、玉ねぎ一俵、馬鹿署〇、五俵、干麺二〇把、塩一四K

◇小浜社宅　米一斗五升、玉ねぎ、馬鹿署三貫、塩六K、大根、人参各一把、石ケン一六〇〇円、相当、衣料四七点

◇野添社宅　米三斗三升、馬鹿署二俵、漬物四斗樽一本、昆布ツクダニ一〇瓶、衣料一箱

◇西原社宅　米一升、麦一升、衣料三六〇点、ウドンソーメン二〇把、玉ねぎ一俵、馬鹿署〇、五俵、塩一四K

◇職場　現金三・〇三〇円、風呂敷二枚、石ケン二〇ケ

四山支部

◇四山社宅（福一）米一斗三升八合、現金九五四円

◇四山社宅（福二）米一斗五升三合、現金一・〇二円

◇四山社宅（福三）米一斗、現金九〇二円

◇四山社宅（福四）米一斗六升、現金一、〇四六円

◇四山社宅（福五）米八升四合、現金七二八円

◇大鳥社宅（鶴五）米三升八合、現金三七〇円

◇大鳥社宅（鶴六）米八升五合、現金一・七一五円

◇大鳥社宅（鶴七）米八升八合、現金四六〇円

◇大平社宅　米一斗一升五合、現金一・一五六円

◇宮内社宅　米二斗九升、馬鹿署一俵、現金二・〇九八円

◇取島社宅　米一斗、馬鹿署一俵、玉ねぎ一俵、現金五六三円

◇鴻社宅　米七升七合、馬鹿署一俵、現金八四五円

◇大島社宅鶴五、六、七連合米六升、衣料七〇〇点、現金五・〇〇〇円、労力提供（勤労奉仕）六〇名（既報）鶴本、学童に対し教科書、学用品供出中

◇各地域分会　新聞社へ寄贈

本所支部

◇白井社宅　米三斗五升六合、麦七合五勺、大豆二合、素麺二把、塩二K、玉ねぎ二貫、石ケン二ケ、衣料一二七点、下駄一足、二九　二一　計　五〇

◇宮原社宅　米二斗四合、麦三升五合、衣料四四点、現金四六六円

◇七夕社宅　米二斗九升三合、麦一升

◇ひまわり社宅　米九升一合、麦一升、大豆五合、塩二K、玉ねぎ二貫五〇〇匁、馬鹿署二俵、衣料一二三点

◇原社宅　米四升二合、馬鹿署三〇〇匁、衣料一〇点、現金二七一〇円

◇白井社宅（建設）米一斗三升五合、梅漬五〇〇匁、塩一・四K、衣料七三点

◇白井社宅（本所）米四升九合、現金八〇円

◇宮原社宅　米六升五合、塩一K、衣料一五点、下駄一足

◇職場　米一石三斗、麦五合、麦粉一K、大谷四合、豆腐一升、素麺一箱一把塩一K、玉ねぎ五〇〇匁、馬鹿署五貫三〇〇匁、アラメ一箱、鰯詰一樽、石ケン四ケ、衣料二六四点、呉服六枚、現金四、七八八円

港務支部

◇新港社宅　米三斗五升、麦五升、玉ねぎ六貫、うどん二四把、茶碗一箱、衣料一梱包、渡物一樽九貫一〇〇匁、麦四升五合、馬鹿署九貫三〇〇匁、衣料七六点、玉石ケン七四点、タオル一七本、会の五十名を超える婦人達が問よ殿闘鎌二ケ、マッチ一ケ、歯磨一ケ、煙草二ケ、靴・足、帽子一ケ、現金一八・〇五〇円

◇職場　米三斗五升二合、馬鹿署五〇匁、麦四升五合、玉石ケン七六点、会の五十名を超える婦人達が問よ殿闘鎌二ケ、マッチ一ケ、歯磨一ケ、煙草二ケ、靴・足、帽子一ケ、現金一八・〇五〇円

三作支部

床下浸水　二七

床上浸水　一一

交通遮断　遮断　五

計　一〇七

四山支部

二九　一二二

二　二

計　一六二

港務支部

二六　八七

流失　一

計　二四

三川支部

計　九

本所支部

計　五

浸水五四六戸

幸い死傷者は皆無

詳細な調査の結果三川支部組合員の水害罹災者一七、二五、四山支部状況の全貌が判明した。これによると床上浸水二七戸、床下四二七戸で、宮浦支部の罹災者一二六、八七、流失一、計二四